

# 「地域懇談会」

## 多古第二地区 中地区

1月12日、多古第二小学校音楽室を会場に「多古第二地区懇談会」が開かれ、31人が参加。また、1月18日には幼稚園お遊戯室で開かれた「中地区懇談会」には47名の参加がありました。それぞれ、町長が主要施策を説明した後、提案テーマに基づく意見交換がおこなわれました。各懇談会の一部分ですが、主な質疑応答・意見交換の要旨をお伝えします。



### ◎多古第二地区懇談会

#### 農業政策はどうなる？

**質問◆規模を拡大するほど赤字になる米作など現在、非常に農家は追い詰まられている。原油や資材の高騰問題もある。今後の農業の在り方、行政支援をどう考えているか？**

**町長●**手探り状態であることは否めませんが、行政にとつて喫緊の課題であると認識しています。

例えば「畑作への助成ができないか」との声があります。個人への補助という形ではなく、方向性のままとった営農について助成ができないかと、現在、具体的な方法について模索しているところです。なお、品目別の補償という形は取りにくい

め、大きくくりの中で対策ができればと考えています。

農業を少しでも先の見える方向にしていけるよう、努めてまいります。

**質問◆宮崎県知事のような行政のトップによる宣伝など、産地のPRも農政のひとつの方策では？**

**町長●**農産物のPRについては、努力させてもらっています。例えば大和芋は、JA多古町の大和芋部会の皆さんと協力しながら、パンフレットの作成や国道への大きな看板の設置など、本年度の予算で対応しています。多古米については、東京駅へのPR看板設置やインターネット活用など、引き続きPRしてまいります。また会議などに出席した際は、機会



をとらえて、多古町の農産物について宣伝させてもらっています。

このほか、農産物の販路拡大方策のひとつとして現在、東南アジアへの野菜輸出について検討を進めています。具体的には、JA多古町やJ



Aちばみどり・JA成田市・JAかとりと、空輸の研究をしながら輸出品目の調整を行っています。

#### 質問◆稲作農家は、多収穫で食味の良

い米を追求する一方で、水田の生産調整(転作)が年々厳しく課せられることには矛盾を感じている。今後の生産調整の方向は？

**町長●**今年度、厳しい状況になることが予測されます。国では、生産者のバックナンバーをーとの話も出ております。また、県でも「全国的に見ると千葉県は生産調整の達成率が低く、矢面に立っている現実を無視することはできない」としています。県ではホールクロップ等、家畜飼料用のイネを作付けするなど、できるだけ手のかからない方向へ、皆さんを導いていけたらと考えているようです。

町としても、生産調整についてどういう位置付けで農家の皆さんと協力していくか、早急に議論し、検討を進めたいと考えている状況です。

#### 質問◆農業の生産性の向上、活性化に

対する町の施策は？

**町長●**就労人口の高齢化問題など、農業の持続そのものが厳しくなっている中、農政については、まさに暗黒模索の状況にあります。「効果を上げ

る策は何なのか？皆さんの発言に何かヒントがないか？行政に反映できるものは、積極的に取り入れていきたい」と考えています。

町では現在、都市と農村の交流事業を積極的に展開しています。これは生産者と消費者のつながりを強化し、農業や農村に対する理解を深めてもらい、さらに消費拡大も図ろうとするものです。

また、農家の方と話し合うこと、農業の現状を把握することも重要ですので、団体ごとの懇談会も、実施していきたいと思っています。

農家の皆さんのご努力により、多古町の農業生産量は有数となっております。これに報いるためにも、一助となる政策を企画していきたいと思っています。

#### キャリア教育や食育は？

**質問◆キャリア教育を、今後も継続して欲しい。**

**教育長●**児童・生徒の職業観や勤労観を養うことが、キャリア教育の目的です。

多古町では、町民や町内事業所の方を外部講師として招いたり、職場体験にご協力いただいたりすることで、学校と地域との交流が進んで



います。また、小学校・中学校・高校の連携や異学年交流も図れたことなど、体験を通して大きな成果が上がっています。今後も、キャリア教育を継続し、より充実させたいと考えています。

**質問◆食育の推進について、どう対応しているか？**

**教育長●**子どもを取り巻く環境や家族の形が変わり、食の乱れが大きく叫ばれています。学校と家庭が協力し、連携を深め、食育を進めることが重要だと考えています。

学校では全体的な教育計画の中で、給食の時間を基本として家庭科

や道徳の勉強も含めながら、食への指導に取り組んでいます。また、子どもたちの食の一部を担うという意味で、学校給食は非常に大切なものだとして認識しています。町の給食センターでは、地元産野菜の使用などに取り組んでいます。

**学校給食センター所長●**給食センターでは現在、18品目程度の地元産農産物を使っており、主なものは米です。今後は、生産農家から直接仕入れるなど、顔の見える農産物を積極的に使っていきたいと思っています。

また、各学校から体験学習などの希望があれば、給食センターとしても、できるかぎり対応していきたいと考えています。

**学校教育課長●**教育委員会では毎年、小学4年生と中学1年生を対象に、小児生活習慣病予防検診を実施しています。この検診で肥満や貧血と診断された児童・生徒に対して、夏休み

に親子での学習会を開いています。今年度は、自治医科大学の学生を招いて、メタボリック症候群について勉強しました。また、同大学出身の多古中央病院小児科医らによる個人面談や栄養士による講演など、食生活を中心とする生活改善指導も行いました。